

2021年CLA賞 受賞技術者プロフィール

津久井敦士 (つくいあつし)



1977年群馬県高崎市生まれ。1999年日本大学農獣医学部農学科卒業。2011年より三菱地所設計。現在、同社都市環境計画部チーフプランナー。登録ランドスケープアーキテクト(RLA)。一級造園施工管理技士。主な担当プロジェクトにコモレ四谷、グランモール公園再整備、大手町フィナンシャルシティグランドキューブ・星のや東京、等

植田直樹 (うえたなおき)



(株)三菱地所設計フェロー・ランドスケープ設計室長/技術士/RLA/東京大学非常勤講師。1965年東京生まれ。丸の内仲通り、丸の内パークビル・一号館広場、パレスホテル東京、グランモール公園、コモレ四谷、ジャパン・スポーツ・オリンピック・スクエアなど。

松尾教徳 (まつおみちのり)



1958年佐賀県生まれ。1982年東京農業大学農学部造園学科卒業。現在、(株)三菱地所設計都市環境計画部ランドスケープ室。主な業務経歴：丸の内仲通り、丸の内永楽ビル、広尾ガーデンフォレスト1,2,3期、歌舞伎座、御殿場P04期、マークイズ福岡、四谷再開発。RLA、二級建築士、一級造園施工管理技士。

西垣和真 (にしがきかずまさ)



1982年茨城県生まれ。2007年東京農業大学大学院農学研究科造園学専攻修了。(株)岩城を経て、2016年より三菱所設計に入社。一級造園施工管理技士、登録ランドスケープアーキテクト(RLA)。主な業務：常盤橋タワー(A棟)、高円宮記念JFA夢フィールド、虎ノ門二丁目地区再開発施設建築物基本設計等業務 等

小林 新 (こばやししん)



技術士(環境部門・建設部門)。日本大学生産工学部非常勤講師、調布市都市計画審議委員、World Parks Academy Director、コザクラインコ達に毎日喘まれながら楽しく暮らしている。

尾崎友美 (おざきともみ)



10代半ばより、日米でランドスケープの設計・施工に従事。平成29年度より、(株)東京ランドスケープ研究所にて制作事業を立ち上げる。現在は、公共事業のコンサルティングと共に民間の開発プロジェクトを事業展開中。技術士(建設部門、総合技術監理部門)、一級土木施工管理技士、一級造園施工管理技士、造園技能士。

羽田泰章 (はだやすずみ)



RLA(登録ランドスケープアーキテクト)ワシントン州立大学農学部ランドスケープ学科卒業。株式会社東京ランドスケープ研究所に入社後、ランドスケープに係る計画・設計業務に従事している。2010年にエジプト東京庭園工(建設部門、総合技術監理部門)、一級土木施工管理技士、一級造園施工管理技士、造園技能士。

鈴木恵明 (すずきのりあき)



1972年に総合コンサルタンに入社。建築計画・設計業務及び都市計画部門での市町村総合計画、都市マスタープラン、地域活性化及びまちづくりなどに参画する。特に大規模開発事業(住宅開発、大規模保養基地、総合スポーツ施設整備等)にも従事。2016年より(株)東京ランドスケープ研究所に入社、主に建築設計を中心に活動、現在に至る。

萩野一彦 (はぎのかずひこ)



(株)ランドプランニング代表取締役/千葉大学園芸学研究所客員教授/博士(工学)/RLA/技術士/CUPE。1982年千葉大学園芸学卒業。(株)オオバ勤務を経て、日本大学理工学部客員教授、早稲田大学芸術学校、工学院大学建築学部非常勤講師、(株)プランニングネットワーク上席技師長などを履歴後、現職。ランドスケープを軸とした総合的まちづくりの計画デザイン実務・教育・研究・社会活動を行ってきた。

友森千春 (とももりちはる)



1969年東京都出身。株式会社松崎橋造園設計事務所を経て、平成13年に株式会社プランニングネットワーク入社。道路や公共空間の植栽設計、造成計画を専門とし、現在は道路空間の利活用や交通安全施設に関する業務に携わる。RCCM(道路、造園)、樹木医、自然再生士

石川重雄 (いしかわしげお)



1975年福島県生まれ。2007年藤造園建設(株)入社。工事部長。主に公共造園工事の現場管理に従事。大熊町大川原地区復興拠点事業では実施設計及び施工を担当。代表的な仕事は、横浜公園再整備工事、第33回全国都市緑化よこはまフェア会場設営業務、馬場花木園拡張部整備工事など。

友保容子 (ともやすうこ)



広島県出身。1994年九州大学大学院工学研究科建築学専攻修了。藤造園建設株式会社社員研究員。大熊町大川原地区復興拠点事業では実施設計を担当。公園緑地や建築外構の設計に従事。環境負荷が少なく居心地良い場の設計を心がけている。ピー・ランドスケープ代表。NPO法人女性技術士の会理事。技術士(建設部門)、一級建築士。

栗下雅之 (くりしたまさゆき)



一級建築士。愛媛県出身、株式会社東京ランドスケープ研究所 四国事務所所属。主にランドスケープに係る計画・設計業務に従事し、愛媛県内において、総合公園、運動公園など多くの公園の計画及び設計に携わっている。

恵谷真 (えたにまこと)



1993年鳥取大学農学部農林総合学科を卒、技術士(都市及び地方計画/建設環境)。(株)公園マネジメント研究所に勤務。市町村の総合計画、都市マスタープラン、緑のマスタープラン等の策定に携わる。また、都市公園の設置管理許可制度等を活用した新たな事業制度の設計に関する調査研究、公園施設の管理運営方針・計画の策定業務等を担当。

長谷川利恵子 (はせがわりえこ)



学生時代を札幌で過ごし、まちづくりと公園計画に目覚める。人が真ん中の公園づくりを旨とし、公園計画・管理運営を支援。現在は、運動・栄養・睡眠の資格を取得し、公園で健康になるプロジェクトを推進中。1988年北海道大学工学部衛生工学科卒、技術士(建設部門)。(株)公園マネジメント研究所在籍。

浦崎真一 (うらさきしんいち)



2007年大阪芸術大学大学院修了 博士(芸術文化学)。(公財)東京都公園協会を経て、2015年(株)公園マネジメント研究所に勤務。現在は大阪芸術大学建築学環境デザイン分野准教授。専門は環境芸術学、近代造園史。

北川明介 (きたがわあきすけ)



1975年東京農業大学農学部造園学科卒業。(株)グラク代表取締役。市街地の既存緑空間の利活用や再生プロジェクトに多数関わっている。

高橋 彩 (たかはしあや)



高知県高知市生まれ。2001年東京農業大学農学部造園学科卒業。(株)グラク入社。登録ランドスケープアーキテクト(RLA)。公園などの計画・設計、管理計画などに従事。ふと思い出す楽しい思い出や、懐かしいことの背景がよい空間であるように、こころに残る空間をつくることを目指して日々格闘中。

田丸真菜 (たまるまな)



2017年東京農業大学大学院農学研究科造園学専攻修了。同年(株)グラクに入社後、2020年まで在籍。都市公園の再整備計画及び基本・実施設計、自然環境調査に基づく人工林の利活用計画などに従事。登録ランドスケープアーキテクト(RLA)

植原睦美 (うへはらむつみ)



2010年東京農業大学造園科学科卒業。2017年(株)グラク入社。主に公園緑地の計画・設計に従事。地域らしさを活かし、心に残る場を生み出すことを目標に取り組んでいます。

大杉哲哉 (おおすぎてつや)



1982年東京農業大学造園学科、株式会社アーバンデザインコンサルタンに入社。公園計画設計、街なみ環境整備、道路修景設計、土地区画整理事業等の多様な業務に携わる。ワークショップを活用した住民参加に多くの実績を有する。現在代表取締役社長。技術士(建設部門)。登録ランドスケープアーキテクト(RLA)。

堤八恵子 (つつみやえこ)



1978年九州芸術工科大学環境設計学科卒業。1985年株式会社アーバンデザインコンサルタンに入社。造園設計、景観、広告物やまちづくりの調査設計を経て、現在代表取締役会長。「幸せ思考」をモットーに、都市・地域・NPO・企業等のマネジメント支援を行っている。技術士(建設部門・総合技術監理部門)。

棚町修一 (たなまちしゅういち)



1955年福岡生まれ。1978年九州芸術工科大学環境設計学科卒業。公園緑地計画・設計・監理、文化財関連の計画・設計に携わる。近年は、主に文化財の保存・活用計画を通じて、魅力あるまちづくりに取り組んでいる。技術士(建設部門・総合技術監理部門)、一級建築士。

小峯 裕 (こみねゆたか)



1997年山口大学工学部社会建設工学科卒業。株式会社アーバンデザインコンサルタンに入社後、住民参加、協働のまちづくりの支援に携わる。住民の声やアイデアを形にして、利用者のあふれる笑顔を求め続けている。

受賞技術者プロフィール

福岡李奈 (ふくおかりな)



2019年西日本短期大学緑地環境学科卒業。2019年株式会社アーバンデザインコンサルタント入社。入社後は、公園緑地の設計や文化財の計画策定、ワークショップの運営に従事。

安部あすか (あべあすか)



2000年福岡生まれ。2020年有明工業高等専門学校建築学科卒業。同年、株式会社アーバンデザインコンサルタント入社。入社後は、調査業務や計画策定業務、ワークショップの運営に携わる。

江上陽菜 (えがみひな)



2020年福岡県立久留米筑水高等学校環境緑地科卒業。2020年株式会社アーバンデザインコンサルタント入社。入社後は、計画策定業務やワークショップの運営に従事。

塚本敦彦 (つかもとあつひこ)



1969年生まれ。1995年京都大学大学院修士課程修了。1995年三菱地所入社。現在、三菱地所設計都市環境計画部ユニットリーダー。主な業務 新宿イーストサイドスクエア、ふなばし森のシティ、豊洲フォレシア、大手町フィナンシャルシティグランキューブなど

朱豊 (しゅほう)



1991年東京生まれ、中国上海育ち。2018年京都大学大学院工学研究科景観設計学研究室卒業。

同年株式会社三菱地所設計入社、都市環境計画部に所属。

主にランドスケープデザイン及び都市土木の設計監理に従事。

美しく快適な都市空間の実現に取り組んでいます。

大瀧英知 (おおたきひでとも)



1973年、岩手県生まれ。岩手大学大学院農学研究科卒業。株式会社総合設計研究所 東北事務所 所長

公園計画、景観計画、植栽計画、復興まちづくりに関する計画、コミュニティデザイン、パークマネジメントに取り組んでいる。研究テーマは公園運営。

技術士（都市および地方計画）

技術士（都市および地方計画）

大石佳奈 (おおいしかな)



1996年、岩手県生まれ。東北芸術工科大学建築環境デザイン学科卒業。在学時はランドスケープデザイン研究室に所属し、庭や緑道の設計、近自然工法を用いた集落の環境整備に取り組む。研究テーマは「郊外ニュータウンにおける風土形成」。

室に所属し、庭や緑道の設計、近自然工法を用いた集落の環境整備に取り組む。研究テーマは「郊外ニュータウンにおける風土形成」。

室に所属し、庭や緑道の設計、近自然工法を用いた集落の環境整備に取り組む。研究テーマは「郊外ニュータウンにおける風土形成」。

室に所属し、庭や緑道の設計、近自然工法を用いた集落の環境整備に取り組む。研究テーマは「郊外ニュータウンにおける風土形成」。

西山秀俊 (にしやまひでとし)



1992年東京農業大学造園学科卒業。2000年(株)グラク入社。登録ランドスケープアーキテクト (RLA)。公園・

緑地のマネジメント、ランドスケープの事業推進に関するコンサルティング等に関わる。時代を見据えたランドスケープアーキテクトの職能を拡げることを目指して活動中。

岸井悠子 (きしいゆうこ)



2005年東京農業大学造園学科卒業。同年、(株)グラク入社。商業施設のランドスケープデザインや臨海緑

地のランドスケープデザイン、公園リニューアルデザイン、個人邸の庭等を担当。土地の魅力を活かす、地域の人々に愛され続けるランドスケープデザインを目指しています。

藤田芽衣 (ふじためい)



2018年東京農業大学造園学科卒業。同年、(株)グラク入社。公共から民間まで幅広いランドスケープの設

計・施工監理に従事。自然にあるものを活かし、空間の価値を向上させることができるランドスケープアーキテクトを目指し日々精進中。

特集

ランドスケープ整備・管理運営の新たな潮流において ランドスケープコンサルタントに期待される役割

一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会

広報委員長 塚原 道夫

都市公園は、レクリエーション、良好な都市景観の形成、都市環境の改善、都市の防災性の向上、生物多様性の確保等、豊かな地域づくりに資する重要なインフラです。

都市公園の整備・管理運営は、従来は公が整備・管理運営を行っていました（公設公営）。

しかし近年は、新たに指定管理者制度、PFI、Park-PFI、DBO等の官民が連携するさまざまな手法が採用されています。すなわち、都市公園等の整備・管理運営の主体の多様化が進んでいます。

CLAは、都市公園事業において、計画・設計等の業務を担うことによって社会に貢献してきました。都市公園等の整備・管理運営が新たな手法によって進められている中で、今後CLAは、ランドスケープアーキテクトの職能を発揮して積極的に参画していきます。

さまざまな手法によって整備・管理運営される先進事例を紹介して、ランドスケープ整備・管理運営の新たな潮流において、ランドスケープコンサルタントが担う役割を社会に強くアピールします。

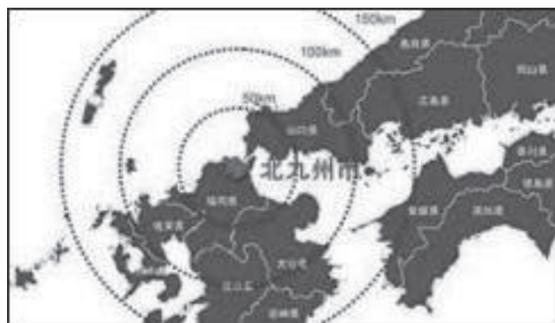
勝山公園 ～全国で初めて Park-PFI を活用した北九州市のシンボル公園～ 北九州市建設局公園緑地部緑政課

北九州市建設局公園緑地部緑政課みどり・公園活性化係・主査
有馬 直隆

1. はじめに

北九州市は、本州と九州の結節点にあり、製造業を中心に産業が発展し、四大工業地帯のひとつとして近代日本のものづくりを支えてきた。一方で、足立山や皿倉山などの山並みを背後にひかえ、周防灘や響灘の美しい海岸線に囲まれるなど、大都市でありながら豊かな自然環境に恵まれた街である。

本市では、北九州市に住んでみたい、今後も住み続けたいと思えるようなまちづくりを目指して、様々な取り組みを推進しているところである。近年では、厳しい財政状況に対応するため、公園や道路など公共空間において、民間事業者のノウハウやアイデア、資金等の民間活力を活用した施設の整備や運営等を取り入れ、更なる賑わいの創出や魅力向上を図っているところである。



2. Park-PFI の導入の経緯

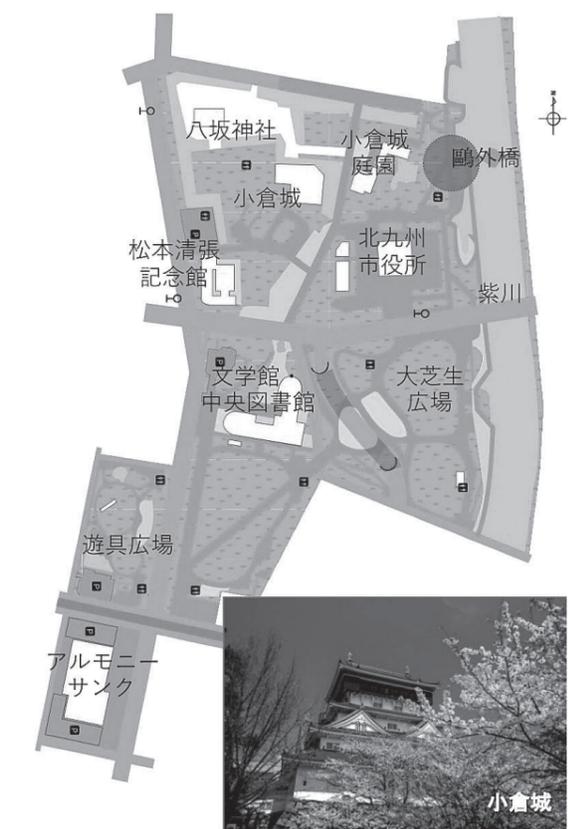
勝山公園は、本市の商業・業務機能の中心である小倉都心部に位置する 20ha を超えるシンボル公園（総合公園）である。

同公園には、小倉城や小倉城庭園、図書館や文学館などの文化・観光施設が集積し、市役所本庁舎を囲んでいる立地的特性から、日常的にワーカーや来街者、観光客など多くの方に利用されている。また、近年では公園の南西に高層マンションが増加し、居住者による利用も多くなっている。

立地環境に恵まれた大規模公園であることから、小倉祇園太鼓やわっしょい百万夏祭りなどの本市を代表する祭りが例年開催されており、加えて近年のインバウンドの効果などによって、公園の利用者や観光客は増加傾向にあった。

このような中、平成 28 年 2 月に策定した「小倉城周辺魅力向上事業基本計画」において、勝山公園における市民ニーズを把握するための利用者アンケートを行った。その結果、休憩や飲食のできる場所、売店などの設置要望が約 5 割を占めていることがわかった。

この課題を解決し、更なる賑わいの創出を図るため、民間活力を活用した施設整備を検討することとなった。



勝山公園 平面図



小倉城

3. 民間活力を効果的に導入するために

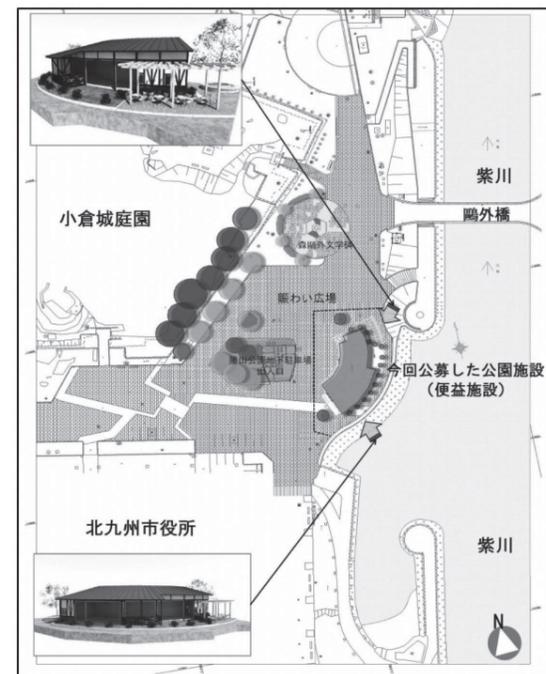
勝山公園での民間活力を活用した施設の導入に向け、平成 27 年度に事業成立が可能な箇所等を検討するため、公園内の主要地点で歩行者通行量調査を実施した。その結果をもとに、民間事業者に対して、事業実施の可能性や箇所の選定についてヒアリングを行った。

あわせて、公共空間を活用したまちの賑わいづくりを検討するため、勝山公園の鷗外橋周辺においてケータリングカー等による軽食等の提供を行う社会実験を行った。

続いて、平成 27 年度の調査結果をもとに絞り込んだ事業対象箇所において、マーケットサウンディングを実施し、公募に向けた条件整理等を行った。

その結果、対象箇所は日常的に人の流れがある鷗外橋西側橋詰広場を選定し、広場内には、公園利用者が休憩でき、さらに飲食・物販機能を有する施設を導入することとなった。

また、施設周辺については、シンボル公園にふさわしいエントランス空間を整備するため、①森鷗外文学碑の移設（北側へ約 20m）、②既存売店・便所の撤去、③碑移設、売店等の撤去後に新たな広場を整備するという方針を定めた。



整備計画平面図



ケータリングカーによる社会実験の様子

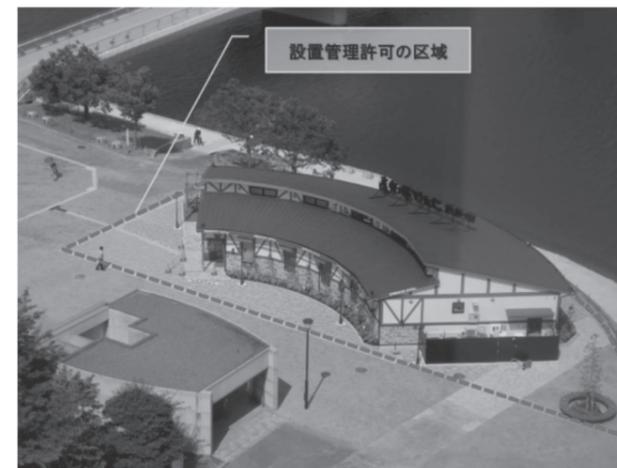
4. Park-PFI による施設整備の概要

飲食・物販機能を有する施設の整備にあたっては、Park-PFI を活用して事業者の公募・選定を行った。この結果、有限会社クリーンズが設置予定者に決定し、フランチャイズ契約で「珈琲所コメダ珈琲店」（木造平屋建て、約 200㎡の便益施設）を整備することとなった。

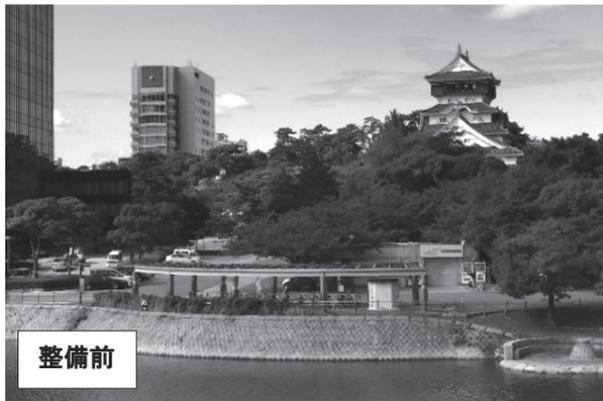
施設は川の線形に沿った扇形で、店内には 35 卓・97 席を設置、施設の川側はガラス面を多く使い、店内から河川景観を楽しめるよう工夫されている。

店舗の周辺には、公園利用者誰もが利用できるテーブル・ベンチ等の設置や、店舗外から直接使える多目的トイレを整備している。

設置管理許可の期間は 2037 年度までの 20 年間で、土地の使用料は本市が定めた最低額の約 5 倍となる月額 1,000 円/㎡を支払う提案となっている。また、事業者は特定公園施設としてパーゴラやウッドデッキ、園路・広場、植栽等を整備し、その整備費に便益施設からの収益の一部（約 250 万円）を充てている。



設置管理許可の区域



整備前



整備後

© 2019 City of Kitakyushu



© 2018 City of Kitakyushu

併設された特定公園施設（休憩施設）

5. 施設オープンから現在まで

「珈琲所コメダ珈琲店 北九州勝山公園店」は、平成30年7月のオープン以来、延べ約305千人に利用されている。(令和3年3月末現在)。

オープン初年度は、想定より利用者が多く、好調なスタートを切った。令和元年度も、初年度より若干減少したものの、当初の見込みより多くの利用者があり、順調な運営を続けてきた。

しかしながら、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため営業時間の短縮を実施したことや、緊急事態宣言による来街者の減少などから、利用者数が前年度比65%程度と厳しい数字になった。

令和3年度に入っても新型コロナウイルスの影響は続いており、現在も時短営業を余儀なくされているものの、利用者数は徐々に持ち直している。

今後も多くの方にコメダ珈琲店をいこいの場として利用していただき、この広場に以前のような賑わいが戻ってほしいと考えている。



© 2018 City of Kitakyushu

店内風景



© 2018 City of Kitakyushu

柴川を臨むカウンター席

6. 事業実施による効果

事業実施によって次のような効果があったと考えている。

1つ目は、コストの削減が図られることである。便益施設の土地使用料として市に収入が入ることに加え、特定公園施設の整備を民間事業者が行うことでインシヤルコストの削減が図られている。本件では、入札により便益施設の土地使用料が条例の5倍の額となっており、公園が市の財政に寄与している。

2つ目は、便益施設（カフェ）の整備によってその周辺の賑わいの創出につながったことである。事業者の店舗整備のコンセプトは、「勝山公園のくつろぐいちばんいいところ」となっている。公園での「カフェ」は、ゆったりとした雰囲気を十分に楽しむことができる「ゆとりの空間」や「くつろぎの時間」を提供してくれる。これは、勝山公園に求められていた市民ニーズに応えるものであり、また、周辺の紫川イルミネーションに合わせた店舗装飾などにより、賑わいの創出にもつながっている。

3つ目は、安全安心な空間の提供である。事業前も照明灯が整備されており通常の明るさはあったものの、夜の公園はひっそりとして少し怖いものであった。そこに夜間も営業するカフェ（営業時間午前7時から午後11時）が、整備されたことで人がいるという安心感が生まれ、夜間の公園利用者に安全と安心をもたらした。

実際に、利用者からも、夜も安心して通行できるようになったという声を聞いている。



© 2018 City of Kitakyushu

夜間の営業風景

7. 今後の展望

公園は、緑があって、遊具があって、子どもが遊ぶ場所から、様々な世代が集う場所へと変化している。ウィズコロナ、アフターコロナの時代では、都市における貴重なオープンスペースである公園の役割はますます重要になってくる。

公園の利活用についても、行政・管理者が柔軟になり、民間事業者が参入しやすく、公民が連携して賑わい創出に取り組むことができる仕組みが考案されている。

本市では勝山公園における Park-PFI の導入に続き、今後も公園における公民連携を積極的に進め、民間事業者と行政の効果的な連携による住民サービスの向上に取り組んでいく。



© 2018 City of Kitakyushu

イルミネーションに合わせた店舗装

四季の郷公園が目指す《体験型サステナブルパーク》へ

和歌山市 産業交流局 農林水産部 農林水産課

はじめに

和歌山市南東部に位置する四季の郷公園は、約25.5haの広大な面積を持つ農業公園であり、周辺の豊かな里山風景が広がる農村地帯では、中山間地の斜面を活かした果樹やタケノコ等の幅広い農業が盛んである。

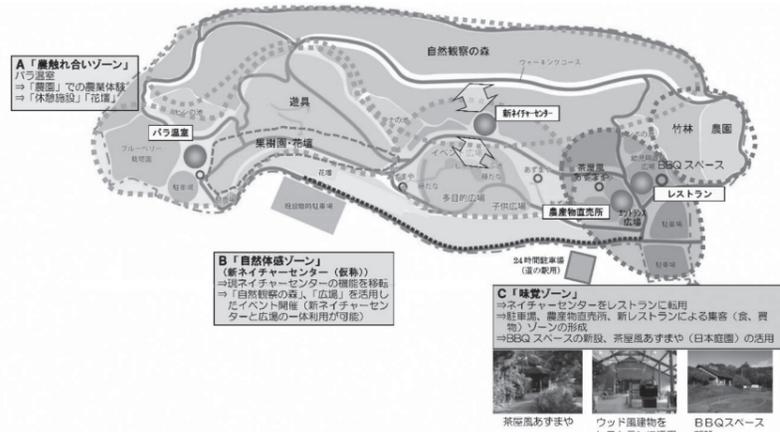
同公園は、開園当初、果樹をモチーフとしたブドウ遊具やフルーツパラダイス等のシンボリックなものが人気を博しており、地域住民からも長きにわたり愛されてきた。

しかし、開園から30年が経過し、施設の老朽化による利用者の安全性も危惧されるなか、昨今のニーズも、モノ消費からコト消費へと自ら体験することに価値観を求める傾向へと変わってきていることを受け、平成28年度にリニューアル基本計画を策定し、体験型施設としての再整備へと着手した。

リニューアルのコンセプト

同公園は、農業公園と自然観察の森の要素を持つことから、“農ふれあいゾーン・自然体感ゾーン・味覚ゾーン”の3エリアにゾーニングし、『農に触れる』、『自然を体感する』、『食を楽しむ』をコンセプトとし、整備を行うこととした。

また、整備後の公園利用についても、民間のノウハウを取り入れることにより、従来の遊ぶだけのものだけでなく、利用者が自ら考え、学び、体験することができる要素を公園各所に散りばめる計画とした。



第一期の公園整備と道の駅としての運用開始

リニューアル第1弾として、同公園エントランス部分を「味覚ゾーン」として令和2年7月に供用を開始した。

地域食材レストラン、農産物直売所、BBQスペースをDBO方式(Design Build Operate)を採用し、設計・整備・管理運営を一体的に発注。民間のアイデアを採用し、新たに縄文時代をイメージした『FOOD HUNTER PARK』と命名。自然との共生・持続可能な循環型の施設を目指し、『Be Wild』をコンセプトとした、野性味あふれる施設運営が最大の魅力である。

また、近隣に和歌山南SICが開通し、利便性が飛躍的に向上。

市初の道の駅としての運用を開始（令和2年3月国土交通省登録）



令和2年7月 食のエリアが「リニューアルオープン」
愛称【FOOD HUNTER PARK】コンセプトは【Be Wild】

整備した施設の概要（第一期公園整備）

①火の食堂（地域食材レストラン）

自然観察に関する展示やイベントを開催していた高天井の木造建物を改修。

木の温かみを感じながら地域の食材を楽しめる地域食材レストラン。

かまどで炊いたご飯や本場ヨーロッパから取り寄せた石窯で焼くパンのほかスイーツやカフェメニューも充実。醤油や梅干し、金山寺味噌など日本の食の原点である和歌山の豊富な食材とともに、あたたかく美しい食卓の風景が楽しめる。

施設概要	
施設面積	450㎡
座席数	店内80席、屋外デッキ16席
主な施設	かまど、石窯
メニュー	各種定食、石窯パン、スイーツ等



高天井の木造建物を改修した「火の食堂」



看板メニュー「四季の定食」
その名のとおり四季ごとのメニューが楽しめる



本場ヨーロッパから取り寄せた石窯で焼くパン

②水の市場（農産物直売所）

隣接する池の曲線に沿って建てられたお洒落な産直棟で、池の気化熱を生かした空調や、雨の日には水の流れを愉しめるガーゴイルなど、民間設計による秀逸なデザインが特徴。

約50種類のオリジナル商品や地元で採れた新鮮な青果・野菜等、豊富な品揃えが魅力である。

地域の特産物としては、春はタケノコ、夏はブルーベリー、モモ、イチジク、秋はブドウ、カキ、冬はミカンと果樹を中心に年中地ものを取り揃えている。

施設概要	
施設面積	304.32㎡
メニュー	オリジナル商品（ポーロ、ラーメン等） 地元産直野菜、果樹 和歌山県産の加工品、特産品等



水辺を背にたたく「水の市場」
池の形状に合わせた流線型の建物が特徴



FOOD HUNTER PARK



地域のとれたて野菜や果物たち

③炎の囲炉裏 (BBQ スペース)

火の食堂に併設し、ジビエや旬の食材を直径3mの大きな囲炉裏で、焚火を使って豪快に食すことができる。

10人がゆったりと過ごせる TIPI (テント) や木々の合間に張られたタープで一日中くつろぐことができる。

夜間のキャンプイベントやライトアップイベントへの利用等、コロナ禍においても屋外の密にならない施設として活躍も想定。

施設概要	
敷地面積	: 900㎡
主な施設	: 10人用TIPIテント1張 5人用テント10張



縄文時代の雰囲気味わえるTIPIテント1張りで5～10人が利用可能。



薪火で豪快に焼く「ジビエサルシッチャ」「熊野牛ステーキ」等の野性的なBBQが魅力



冬キャンプ等の夜間のイベントでも活躍夜のライトアップは幻想的

④土の農園 (体験農園)

地域農家の指導のもと、農具や肥料は園主が準備。手ぶらで手軽に参加できる体験農園という農業塾。

初めての方でも本格的な野菜づくりに挑戦できる。

さらに、同公園の体験農園は、オプションとなるイベントも充実。園内の各施設と連携し、タケノコ掘り体験、ブルーベリー摘み取り体験、料理教室等の四季を感じることができ多くの人気イベントに無料でご参加いただける。

施設概要	
区画数	: 43区画 (20㎡/区画)
主な施設	: 倉庫 (2棟)、東屋 (2棟) 散水栓、シャワー室 (男・女・多目的)



農家がついて教えてくれるので安心
家族連れを中心に大勢の方が参加した植付体験



月1回程度、農業の講義や体験イベントを開催
タケノコ掘りやブルーベリー摘取りが人気



作業で汗をかいたらシャワー室も利用可 (有料)
農園以外の公園利用者もご利用可

今後のリニューアル計画

同公園は、令和4年4月の公園全体のフルリニューアルオープンを目指し、第二期公園整備工事に取り組んでいる。

整備手法については、第1期と同様にDBO方式により、民間事業者のノウハウを最大限に生かした公園整備を行う。

新たな公園は、生態系を育む『山エリア』と暮らしの知恵が詰まった『里エリア』を行き来し、多様な世代が遊べる居場所となりながら、実質カーボンニュートラル・フードロスゼロを目指す『サステナブルパーク』をコンセプトとする。

また、これまでの公園利用は決められた遊具で決まった遊びを繰り返すことが主であったが、整備後は、遊び方を固定しないことで『遊ぶ』を『学ぶ』、自然に囲まれた非日常的な空間の中で、公園全体を遊具と捉え、様々な体験や遊びを通じて考える力を身に着ける公園を目指す。

また、居場所づくりというポイントに主眼を置き、低年齢層の子供連れの親御さんが安心して子供たちを遊ばせることができるよう、各遊び場に休憩施設を併設することに加え、生垣や樹木を整理することで、公園全体の視認性を改善し、安全性の向上を図る。

さらに、第一期のFOOD HUNTER PARK エリアを含め、公園全体のサイン・ビジュアルのトーンに統一感を持たせることで、利用者がストレスなく情報を得られる動線を整理し、公園全体の滞在時間増加、リピーターの増加に繋げる。

今後は、コロナ禍やアフターコロナにおいて、昨今の健康志向も相まり、郊外でのワーケーションや屋外での田舎体験等の需要は飛躍的に上昇することが予想され、同公園のさらなる活用拡大を図りたい。



【四季の郷公園】	
住所	: 和歌山県和歌山市明王寺85
開園時間	: 9時～17時
休園日	: 火曜日 (休園日が祝日の場合は、その翌日) 年末年始 (12月29日～1月3日)
入園料	: 無料
アクセス	: 車での利用 和歌山南SICから約5分 和歌山ICから約15分 電車での利用 和歌山電鉄伊太祁曽駅下車徒歩1.2km

せんなん
泉南りんくう公園
 センナン ロング パーク
【愛称】 SENNAN LONG PARK について

大和リース株式会社

施設の紹介

関西国際空港を臨む泉南市の海岸に、2020年7月開業した「泉南りんくう公園」。SENNAN LONG PARKの愛称通り、約2kmの長い海岸に沿って、スポーツ施設、飲食店、地元食材の市場、キャンプやグランピング施設など多彩なコンテンツやアクティビティが配置されています。

泉南地域における新たなランドマークとして注目されるこの大規模な都市公園は、民間の資金やノウハウを活用するPFI事業により当社が整備し誕生しました。今後、30年にわたる維持管理・運営を通じて、すこやかに、いきいきと暮らせる地域づくりと、にぎわいに貢献します。

整備の経緯

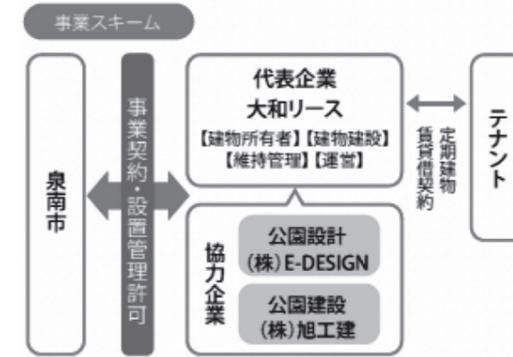
「泉南りんくう公園」の敷地所有者は大阪府。日本の夕陽百選の名所であり、人気の海水浴場や漁港といった観光資

源に恵まれながらも、この地は長く未開発でした。

そこに可能性を見出した泉南市が大阪府に土地の借り入れを要請。地域のにぎわい創出につながる観光・レクリエーション拠点創出を目的に、大規模な公園整備事業に着手しました。

泉南市における大きな課題は、財政面と大規模な公民連携事業の経験がなかったこと。泉南市はマーケットサウンディングを実施するなど慎重に準備を重ね、2017年に公募型プロポーザルを実施、大和リースを代表とするグループが選定されました。

1996年11月	りんくうタウン開業
2014年12月	泉南市が民間活力で公園整備を行う方針を決定
2017年1~2月	泉南市が本事業に係るマーケットサウンディングを実施
12月	泉南市より本事業の公募が開始
2018年5月	大和リースグループが優先交渉権者に決定
2019年3月	泉南市と大和リースグループの事業契約が締結
9月	建設工事着工
2020年4月	SENNAN LONG PARK オープン予定



選定のポイント

提案が評価されたポイントは大きく2つ。1つ目は「海辺の環境を活かした公園設計」。長い海岸沿いを4つのゾーンに分け、エリアごとに地形や景観との親和性を重視した施設を配置しました。その結果、バリエーション豊かで訪れる人を飽きさせない景色と体験を楽しめる場所となっています。

2つ目は「地域資源の活用につながるアクティビティ」。例えば地元ならではの食材が楽しめるマルシェやバーベキュー、オーシャンビューを満喫できるグランピング施設などのアウトドアレジャー、更には合宿やセミナーを誘致し、地域活性化につながる温泉付き宿泊施設も整備されています。

ロケーションを十分に活かした設計とデザイン。このエリアの魅力を広く発信できるコンテンツと体験。これが、当社がこだわったポイントです。



ランドスケープデザインについて

ランドスケープデザインは、ただ外形を美しく整えるだけでなく、人の動線を考慮し、人が使いこなしてこそ成立します。

今回のプロジェクトでは、大阪湾に面した海岸沿いという自然豊かなロケーションを活かし、「海と空に溶け込む」をテーマに、景観デザインを追求しました。

とにかく広くて長いこの地形においては、多様な年齢層の人々が思い思いに楽しめるよう、4つのゾーンに分けています。ファミリーが安全・安心に遊べる場所や、カップルがロマンティックに時を過ごせる空間などがあり、なかでも「若者たちがエネルギッシュなパワーを健全に発散できる場を作りたい」という思いを込めたスポーツパークは、想像以上のにぎわいを創造しています。

また、立地特性を生かした仕掛けとして、季節ごとの夕陽の位置を示したゲートや展望台を設けています。



稲毛海浜公園のリニューアル

千葉市都市局公園緑地部緑政課活用推進班
長束 有祐

1. はじめに

令和3年に市制100周年を迎えた千葉市は、千葉県のほぼ中央に位置し、東京都心までの距離は約40km、成田国際空港までは約30kmの位置にあります。人口は年々増加し、現在約98万人、市域面積は271km²で、その一部は東京湾に面しています(図-1)。現在は、日本最大級の貝塚で縄文人の生活の証である「加曽利貝塚」、約2千年の時を経て開花した世界最古の花である「オオガハス」、千葉市の礎を築いた一族である「千葉氏」、日本一の総延長を誇る3つの人工海浜と2つの海浜公園からなる「海辺」の4つの地域資源を活用した、千葉市らしい都市アイデンティティの確立を目指し、様々な取り組みを進めているところです(写真-2)。

4つの地域資源のひとつである「海辺」エリアには、東京から最も近い海水浴場の「いなげの浜」、ウィンドサーフィンのメッカとして知られる「検見川の浜」、多種多様な大規模イベント会場として利用される「幕張の浜」の3つの人工海浜と、幕張海浜公園、稲毛海浜公園の2つの海浜公園があります。これらの海辺は現在でも様々な形で活用されていますが、海辺エリアをはじめその周辺のさらなる活性化を図るため、20~30年先の将来を見据え官民が連携して、海辺が持つポテンシャルを最大限引き出しながら、新たな魅力づくりに取り組んでいくこととし、その方向性を示した「海辺のグランドデザイン」を平成28年3月に策定しました。

これからの海辺では、レクリエーションやレジャーの場所として活用していくことはもちろんのこと、これまで市街地の中で行われていたさまざまな活動が海辺エリアににじみ出ていき、海辺を活用した生活文化が築かれて、海辺エリアを舞台に思い思いのアーバンライフが展開されていくことを目指し、「海辺とまちが調和するアーバンビーチ」をコンセプトに、都市型ビーチの可能性を追求していくこととしています。

今回は、「海辺のグランドデザイン」に基づいた、稲毛海浜公園のリニューアルの取り組みについて紹介します。

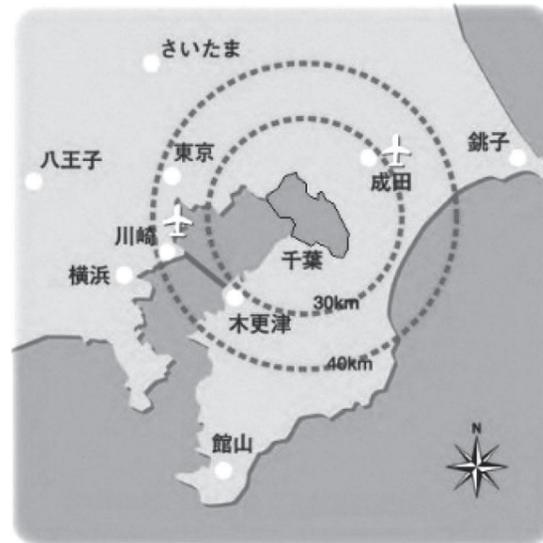


図-1 千葉市の位置



写真-2 千葉市の4つの地域資源

2. 稲毛海浜公園の概要

稲毛海浜公園は、稲毛海浜ニュータウン造成事業の一環として、埋め立てにより失われた自然の復元を目指し埋立地の前面に整備された面積約83haの総合公園で、昭和52年に都市公園としてその一部が開園しました。

前述の日本初の人工海浜「いなげの浜」も都市公園の一部であり、その他市民植樹により誕生した磯の松原や、埋め立ての歴史を展示する稲毛記念館、一年を通して花の魅力に会える花の美術館、野球場やテニスコートなどのスポーツ施設や大型レジャープール、ヨットハーバーなどがあります。

「検見川の浜」に面している検見川地区では、老朽化が進み利用者数も低迷していたサイクリングセンターに代わり新たな賑わいを創出するため、公募を経て選定された民間事業者によって整備された施設、ザ・サーフオーシャンテラスが平成28年3月にオープンしています(写真-3・4)。東京湾に沈む夕日などが一望できるレストランや、県内初出店となるフランスで大人気のベーカリーカフェのほか、イベントやウエディングなど多目的に利用できるホールやバンケットがあり、いずれも海への眺望に優れ、海辺の魅力を最大限に活かした施設となっています。



写真-3 ザ・サーフオーシャンテラス(レストラン)



写真-4 ザ・サーフオーシャンテラス(ホール)

3. 稲毛海浜公園リニューアルの経緯

稲毛海浜公園は、開園から40年以上経過し、多くの施設で老朽化が進んでいることから、平成28年に策定した「海辺のグランドデザイン」をもとに、当公園の持つ、都市型ビーチなどのポテンシャルを最大限に活かし、より多くの来園者が集い、賑わうような施設構成とサービス内容

に改善することを目指し、民間事業者による豊富な経験を活用した施設整備と一体的な管理・運営による再整備として、平成29年4月から事業提案を募集することにしました。

主な募集条件は、以下の通りです。

- (1) 海辺のグランドデザインを踏まえているもの
- (2) 稲毛海浜公園全体の活性化に資する事業
- (3) 事業期間は、20年~30年(協議により決定)
- (4) 提案事業に係る費用は基本的に事業者の負担、収益は許可使用料を除いて事業者の収入となる。

約2か月の公募期間に8者から提案があり、「千葉市公園等活用事業者選定委員会」(附属機関)からの意見聴取、評価を踏まえ、白い砂浜、海へ延びるウッドデッキ、グランピング施設、温浴施設、バーベキュー場、リゾート感が感じられる大人も楽しめるプールへの部分改修など、年間を通してビーチを楽しむ「INAGE SUNSET BEACH PARK」(図-5)を提案した、株式会社ワールドパーク連合体を事業者として選定しました。



図-5 リニューアル全体イメージ図

4. 主な取り組み

選定した提案内容の一つには、「いなげの浜」をリゾート感あふれる白い砂浜へと改修し、夕暮れ時の景色がきれいな「いなげの浜」の魅力を最大限に発揮できるように夕方から夜も楽しめるような公園にリニューアルしていくこととしており、実現に向けて設計協議、関係部署と協議を開始しました。

ここでは、各々の事業についてご紹介します。

(1) 白い砂浜

「いなげの浜」は全長1.2kmあり、世界で2番目に整備された人工海浜です。自然の砂浜とは違い河川などからの砂の供給が乏しいため、砂浜の維持には砂の補充が必要となりますが、昭和51年のオープン以降、昭和59年に山

砂の補充、平成10年に砂の補充と砂の流出防止のための潜堤を設置しましたが、それ以降約20年間砂の補充が行われませんでした。その結果、平成30年には満潮時に砂浜が部分的に消失する状況が生じていました(写真-6)。



写真-6 養浜前の満潮時の様子

今回の養浜に使用する砂については、他の海域の海の砂は外来生物が海に定着する可能性、リゾート感を演出できる白さ、まとまった量を安定して確保が可能、他の砂浜で養浜に使用された実績などを考慮して、オーストラリア西オーストラリア州アルバーニ産珪砂を採用しました。この砂の特徴としては、石英(二酸化ケイ素)が99.5%を占め、またその純度が高く、ガラスの製品の原材料としても使われており、真っ白でサラサラしています。砂の採用については、環境への影響などについて、地元住民や漁業関係者に説明を行い、理解を得ながら進めました。

平成31年4月より着工、令和元年10月にオープンしました(写真-7)。砂はさらさらとした手ざわりで、手足にまとわりつかないのが特徴で、裸足になってその感触を楽しむ人の姿も見られました。

ビーチスポーツの祭典「ジャパンビーチゲームズフェスティバル千葉」も開催されました(写真-8)。



写真-7 白い砂浜



©NPO法人日本ビーチ文化振興協会
写真-8 ジャパンビーチゲームズフェスティバル千葉
2020のビーチバレーの様子

(2) 海へ延びるウッドデッキ(図-9・10)

白い砂浜と一体となってリゾート感を演出し、ビーチの新たな景色を生み出すことを目的とした、海へ延びるウッドデッキの整備を令和2年10月より進めています(写真-11)。

このウッドデッキは延長が90m、幅が10mで、車いすの方でも気軽に海上散歩ができ、海の上でのんびりと過ごす、くつろぎの空間を提供する、いなげの浜の新たなシンボルとなります。デッキの上にはカフェスペースを整備し、飲食や音楽ライブパフォーマンスなどの新たな海上での非日常的な体験ができるスポットとなる予定で令和4年3月の完成を目指して取り組んでいます。



図-9 海へ延びるウッドデッキイメージ(全景)



図-10 海へ延びるウッドデッキイメージ(上部)



写真-11 整備状況(令和3年8月)

(3) 新しいバーベキュー場 small planet CAMP&GRILL(写真-12)

海と森を感じられ、千葉県の食材を積極的に使い、地産地消や千葉のPRに取り組む新しいバーベキュー場が令和3年4月にオープンしました。

芝生の上での気軽なバーベキューや、木々に囲まれたプライベート空間での、地元千葉の農家と提携し採れたての食材をふんだんに取り入れた、少し贅沢なフォレストバーベキューとグランピング体験などが好評です。また、提供している野菜を作っている農家の直売マルシェイベントや、砂浜でのヨガイベントなども併せて実施しています。



写真-12 small planet CAMP&GRILL

(4) プール改修(図-13・14)

大人も楽しめる空間づくりとして、おしゃれでくつろげるウォーターベッドエリアやパラソルエリア、ナイトプールとしても利用できるプライベートエリアを整備するほか、音楽やショーを開催できるイベントスペースの整備やキッチンカーによる様々な食べ物の提供により、魅力アップを図っていく予定です。



図-13 改修イメージ(全体)



図-14 改修イメージ(ウォーターベッドエリア)

5. 今後の展望

稲毛海浜公園のリニューアル事業は平成29年度より開始し、当初の予定よりも遅れてはいますが、少しずつ、リニューアルが進んでいます。

一方で、新型コロナウイルス感染症の拡大により、事業環境が激変したため、グランピング施設や温浴施設などの事業計画の変更を余儀なくされているところです。

今後は社会情勢等を注視しながらプール、花の美術館の改修や、老朽化したトイレの建て替えなどを進めてく予定です。

神奈川県立観音崎公園（たたら浜園地）における Park-PFI 事業「BEACH ⇄ PARK LIVING」

1. 公園の現状と魅力向上の必要性について

神奈川県立観音崎公園は、東京湾に突き出た横須賀市観音崎のほぼ全域に広がった 70.4ha の公園である。海上を行き交う船舶を眺めたり、シヤやタブを中心とした照葉樹林のなかを散策したり、色々なレクリエーションを体験できる公園として、横須賀市内だけでなく、横浜市や川崎市を含め市外からも多くの方が訪れている。

日本最初の洋式灯台「観音崎灯台」や、東京湾を中心とする森、川、海の自然と人との関わりなどを考察し展示した「観音崎自然博物館」、横須賀市の海を描いた作品、横須賀、三浦半島ゆかりの作家の作品を展示する「横須賀美術館」など、環境、歴史、文化に触れる施設も多く、年間約 87 万人（H30 年度実績）の公園来園者を有している。

しかし、その来園者の約 6 割が観音崎園地や横須賀美術館等が配置されている公園東側に集中し、公園内での平均滞在時間も 2 時間程度に留まっている。公園全体の周遊性の向上と滞在時間の増加に向けた新たな利用の拠点として、公園西側の「たたら浜園地」の活用が求められた。

本事業は、神奈川県立公園初となる Park-PFI 事業として、民間事業者による収益施設の整備・運営により、公園への集客と地域の活性化を目的に実施され、2020 年 9 月に新たな施設「BEACH ⇄ PARK LIVING」のオープンを迎えた。

2. 新たな県立観音崎公園での楽しみを提案する「BEACH ⇄ PARK LIVING」

観音崎公園の中でも海を間近に望む屈指のロケーションと高い木々に囲まれた適度なプライベート感を有した「たたら浜園地」において、この海と公園の両方を楽しめる環境を最大限に活用し、これまでの観音崎公園にはない、新たな価値、新たな楽しみ方を提案する、「ゆったりと過ごせる LIVING（リビング・居間）のような空間」の創出をコンセプトとし、その空間を楽しむためのコンテンツとして、バーベキューやカフェ機能を付加した。



図-2 BEACH⇄PARK LIVING

一方で、本事業の実施にあたっては、Park-PFI 制度で焦点が当たりがちな、「収益施設の整備」のみに留まることなく、如何に公園全体の価値向上、ひいては、観音崎地区全体を活性化し、まちづくりに寄与できるか、という観点で事業を実施することとした。

こうした観点に基づき、今回の事業範囲には含まれていないものの、夏場を中心に多くの利用者が来る「たたら浜」との連携を重要視した。

新たな集客施設の設置により公園（PARK）内の回遊性はもちろん、たたら浜（BEACH）との利用者の行き来も促す仕組みを取り入れ、エリア全体の回遊性の向上を目指すこととした。さらには、本公園の指定管理者など様々な関係者と連携したイベントの企画や広報等を実施することで、観音崎公園の新たな顔として、観音崎公園・観音崎地区の魅力の発信を目指した。

3. 事業概要

- 事業名 : 県立観音崎公園「たたら浜園地」における Park-PFI 事業（神奈川県横須賀市）
- 施設名 : BEACH ⇄ PARK LIVING
- 面積 : 観音崎公園たたら浜園地 8,350㎡
（公募対象公園施設 5,610㎡、特定公園施設 2,720㎡、利便増進施設 20㎡）
Park-PFI 方式
- 準備期間 : 2020 年 7 月 1 日～9 月 18 日
- 運営期間 : 2020 年 9 月 19 日～2031 年 3 月 31 日（予定）
- 実施・運営体制 : BEACH ⇄ PARK LIVING 共同事業体



図-3 ロゴマーク

表 JV 構成企業と役割

	企業名	役割
代表企業	パシフィックコンサルタンツ（株）	統括管理・全体統括
構成企業	横浜緑地（株）	施設維持管理 ※観音崎公園指定管理者（2021年8月現在）
構成企業	（株）OUTDOOR LIVING	カフェ/バー・受付およびBBQサイト運営



図-4 施設名称入り航空写真

4. 整備方針

(1) 海を眺めながら自然を堪能できる、リビングのようなくつろぎ空間としての公募対象公園施設整備（民間事業者の収益施設）

① 海への眺望を活かした施設配置

既存の傾斜地を利用し、全ての BBQ サイトから海への眺望を確保した施設配置を行うとともに、デッキとタープによる半屋外空間を設けることで安心感のあるリビングに感じられる屋外で体験できる施設とすることや、中央にアウトドアフィールドとして広場空間を設けることで、ゆとりある BBQ サイトの配置を実現するとともに、BBQ 利用者や一般利用者の多目的な利用やイベント等

による利用等、様々なシーンでの活用とし、本施設が県立観音崎公園の顔となるように配慮して設計を行った。



図-5 海への眺望を活かした施設配置



図-6 断面イメージ

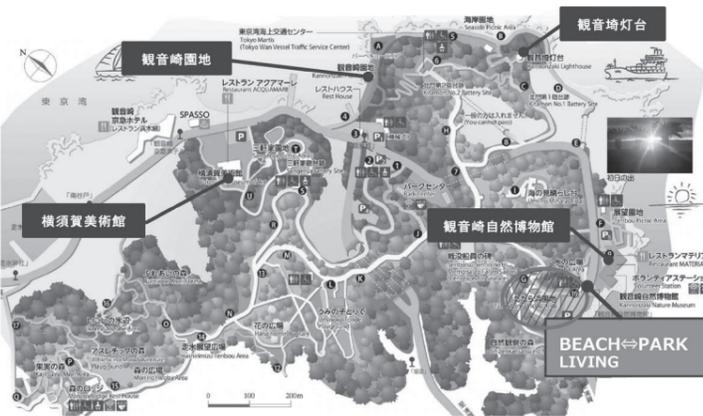


図-1 観音崎公園平面図

② 多様なニーズに配慮した施設

多世代利用のニーズにも十分配慮し、海への眺望に特化した「オーシャンビューサイト」、家族連れをターゲットとし、ハンモック等のファニチャーを設けた「ファミリーサイト」、大人数での利用やイベント、さらにステージ等としても利用可能な「パーティーサイト」、車を横づけして利用可能な「オート BBQ サイト」など4種類17のBBQサイトを配置した。また、繁忙期等には「テーブルサイト」を設置し、より多くの利用者が楽しめる工夫をした。

施設の受付を兼ねるカフェ・バーは既存の公園四阿を改修し、海に似合う真っ白な外観に整備した。

また、BBQサイトの一部には冬季にこたつを設置できるように、電源を確保し、年間の運営を見据えた施設整備を行った。

③ 円滑な運営を見据えた施設配置

駐車場の一部についても、公募対象公園施設としての駐車スペースを(18台)確保し、通常はBBQ利用者の駐車場として利用し、繁忙期にも駐車場を円滑に利用できるように配慮した。

④ 周辺住民や一般利用者に配慮した、開かれた空間

カフェ・バーや園路等はBBQ施設利用者に限らず、地域住民をはじめ、誰でも利用できるよう、立ち寄りやすい開かれた施設とし、地域と連携したイベント等も行う場と



図-10 カフェ・バー

しても活用されている。

さらに、ビーチとの回遊を促すため、トイレ脇に無料シャワーを2カ所設置し、たたら浜の利用者に対するアメニティを向上させた。



図-11 無料シャワー

(2) 既存公園の課題等を改善し、公園の利便性に寄与する特定公園施設整備 (民間事業者の負担により整備する公共的施設)

本事業においては、特定公園施設の整備も、全て民間事業者の費用負担にて実施する事業スキームとなっている。

トイレに関しては、老朽化が進んでいた既存施設に対し、使いやすさの向上と節水のため水道蛇口の定量式への変更や、ベビーベッドの設置等により利便性の高い施設に改修するとともに、トイレ内側壁・天井塗装等により清潔感を創出した。

駐車場に関しては、駐車スペースを既存の横幅2.3mから横幅2.5mへ拡大するとともに、動線と駐車計画を見直し、既存の課題を改善し、安全性と利便性の向上を図った。

(3) 利用者の利便性・安全性確保に向けた利便増進施設整備(サイネージ)

近年の災害に備え、地域の安全性を高める設備として、サイン及びデジタルサイネージをたたら浜園地入口(トイレ前の生垣スペース)付近に設置した。緊急時にはパトランプや警報音等で津波警報等を警告し、たたら浜の利用者への注意喚起を行うこととした。デジタルサイネージでは、観音崎公園周辺の観光情報や地域のイベント、広報、さらに防災情報を発信している。

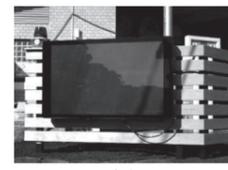


図-12 デジタルサイネージ

5. エリア全体の回遊性と地域連携について

(1) 公園全体・地域全体での一体感の醸成

地域の活性化に向け、観音崎地域で毎月開催されている

連絡協議会に参加し、観音崎公園指定管理者、観音崎自然博物館、横須賀美術館、観音崎京急ホテルやその他地域の組織や団体と一丸となった取組を実施している。

例えば、連絡協議会のメンバーによる地域共通割引制度の実施や地域ボランティアによる清掃活動等への積極的な参加等、地域に根ざした活動を実施している。また、本施設へのアクセス向上、さらには回遊性の向上や滞在時間の延長を目指し、観音崎ホテルとの連携によるシャトルバスの運行を実施し、エリア全体の魅力アップに寄与している。



図-13 シャトルバス

(2) 様々な取組みによる地域の賑わい創出・活性化に向けた取組み

本施設では、施設の特徴やロケーションを活かしたパークヨガや、パーティーサイトをステージとしたフラダンス教室の発表会の開催等、地域団体との連携した様々な活動を企画、誘致、実施し、地域活動の場として活用されている。

また、BBQ以外の取組として、初日の出を楽しむヨガ、公園に宿泊できるキャンプイベント、こたつ BBQ 等のイベントによる冬期の利用促進に向けた取組や、SUP教室など「たたら浜」の新たな楽しみ方を発信し、観音崎公園や BEACH ⇄ PARK LIVING を知っていただく機会の創出を行った。

6. 最後に

近年都市公園を対象として、Park-PFI 事業を始めとす

る公民連携事業が盛んである。しかしながら、冒頭にも述べた通り、昨今の風潮として、インパクトのある収益施設の整備のみに焦点を当てた事業が先行している状況である。また、そのことにより、公園の一部区域を活用した Park-PFI 事業の実施も増加し、公園が切り売りされているような印象さえ受ける。

本来公園は、市民活動の場として「憩いや賑わいを創出する拠点」、景観、環境、防災等地域課題を総合的に解決する「まちづくりの拠点」の役割を担う。その実現には、公園を含めた地域全体でのコンセプト立案や、それに見合った施設の導入、質の高いランドスケープデザインの空間創出、多様なイベント、地域連携など多面的かつ総合的に議論されるべきであり、民活による部分的最適化を図るだけでは、本来の Park-PFI 事業における目標は実現されないと考える。

そうした中で、コンサルタントとして、これまで培ってきた公共インフラの設計・計画における実績やノウハウは、Park-PFI 事業実施において重要な要素となりうる。本来発揮すべき公共インフラの価値と、持続可能な事業収益を両立させるための公園計画の検討・整備・運営を実施することが、Park-PFI 事業等に我々コンサルタントが参画する意義と考える。

「BEACH ⇄ PARK LIVING」においては、2020年9月のオープンから約1年が経過し、新型コロナウイルス感染症の影響等があるものの、当初の目標としている観音崎の顔として、Park-PFI 事業の本来の目的達成に向けて一定の成果を出せたと考えている。

今後も、この良い流れを止めることなく、当初の目標でもある県立観音崎公園全体への波及効果を見据え、より多くの利用者の方々に楽しみ、喜びを提供し、観音崎の魅力を多くの人に堪能していただけるような事業を全力で取組みたい。



図-7 ファミリーサイト



図-8 パーティーサイト



図-9 オートBBQサイト



図-14 イベント

民間主導公民連携事業による BeBA TERRACE について Improvement of BeBA TERRACE in public private partnership project

株式会社 Gugusdada 代表取締役 / BeBA TERRACE 運営協議会 代表
長澤 幸多

1. はじめに

2018年度に公募設置管理制度（Park-PFI）による盛岡市中央公園整備事業の事業者公募があり、株式会社みんなのみらい計画、株式会社MDS及びタヤマスタジオ株式会社が事業者として選定されました。しかし、事業提案を実施に移行するなか、新型コロナウイルス感染症により、取り巻く環境が大きく変化し、当初の3事業者だけで事業を推進することが困難となったため、新たに3事業者（当社も要望を受けて事業参画）を加え、6事業者で事業を推進しています。

複数の事業者がいることで、各建屋の事業調整や連携強化による意思疎通が必要との判断から、今年1月にBeBA TERRACE 運営協議会（以下「協議会」という。）を設立しました。民間主導公民連携事業（以下「PPP」という。）においては、行政と民間で対等な立場で事業を推進することが重要であり、官民双方でパブリックマインドとプライベートマインドを持ち、共通言語で事業推進することが重要になります。

私は、前職が盛岡市職員であること、（一社）公民連携事業機構が主催する都市経営プロフェッショナルスクール（以下「スクール」という。）で学んだことから、盛岡市と議論や協議できる共通言語を持っており、協議会の代表者として事業を推進しています。

- (1) 〒020-0866 岩手県盛岡市本宮蛇屋敷1外
- (2) JR 盛岡駅から南へ一級河川雫石川を越えて直ぐにある都市公園
- (3) 盛岡市中央公園は、岩手県立美術館、盛岡市先人記念館、盛岡市子ども科学館及び盛岡市遺跡の学び館と複数の教養施設がある都市公園です。
- (4) 盛岡市は約29万人の岩手県の県庁所在地で、サービス産業が主要産業となっている都市です。

2. PPP 案件

現在、第3セクター（株式会社もりおかパークマネジ

メント）と自社経営の2足の草鞋で持続可能な都市経営の実現に向けて取り組んでいます。

持続可能な都市経営の実現には、事業収益性のある公共施設は民間に開放し、事業収益性の乏しい公共施設は行財政負担で行政サービスを維持していく必要性を感じていました。

また、持続可能な都市経営を実現するためには、ひとつの都市公園 PPP だけでは到底不可能であると感じ、都市を俯瞰的に見て事業収益性の高い複数の都市公園 PPP に取り組んでいます。

個々の環境が違うため、異なる立場に身をおいて取り組んでいますが、全てスクールで学んだことをベース（都市経営課題×経済合理性）として事業化しています。

本稿では、そのなかから、BeBA TERRACE 事業について紹介します。

都市公園名	プロジェクト名	関わり方
木伏緑地	KIPPUSHI(キップシ)	民民連携
盛岡城跡公園	ホホホの森(ホホホノモリ)	民民連携
盛岡市中央公園	BeBA TERRACE(ビバテラス)	事業者(自社)
盛岡市動物公園	ZOOMO(ズーム)	3セク職員

3. BeBA TERRACE の現状及び PPP の実施

(1) 盛岡市中央公園整備の経緯

BeBA TERRACE のステージである盛岡市中央公園は昭和50年代前半に計画着手し、昭和50年代後半から工事着手しましたが、未だに3分の1が未整備の状況です。事業が遅れている理由は、年々厳しさが増す財政状況下において、予算が確保できないことに尽きます。

盛岡市においては、事業着手した昭和50年代に10年整備計画で進めてきたものが、予算化が困難な状況で半世紀近くたっても事業完了の見込みが立たないことから、PPPによる事業推進を選択したものです。

後述しますが、我々事業者は行財政に依存しないことを掲げて事業提案しており、BeBA TERRACE はイニシヤ

ル及びランニングコストに行財政負担が発生しない、民間がつくる都市公園であり、民間が経営する都市公園なのです。

(2) 矛盾

盛岡市中央公園は、未整備区間の建設費に数億円が必要となる一方で、いたるところで修繕が必要な状況です。維持管理できずに適時適切な修繕がなされないまま老朽化が進み、大規模修繕が必要であるにも関わらず対応できないため、現在は使用禁止措置により凌いでいる状況です。

新規整備には国の支援があるので、整備を進める（アクセルを踏む）が維持修繕はできない（ブレーキを踏む）という現状は、縮退時代へ時代背景が大きく変わるなかで致し方ないことなのですが、時間が経過するなかで矛盾が介在しているのが現在の盛岡市中央公園であり、良好な公共サービスを提供できているとは言えない状況です。

(3) PPP (Park-PFI) の実施

① 民間発意

盛岡市では、都市公園法改正前から PPP による盛岡市中央公園の整備を検討していたことから、マーケットサウンディング等を実施し、盛岡市中央公園内に公募対象都市公園施設を整備したい民間企業の意向は把握していました。

また、盛岡市においては待機児童の多いエリアであることから、保育園を所管する部署においても盛岡市中央公園に保育園の建設を検討していました。

② 都市公園法改正

2017年に都市公園法が改正、同年6月15日に施行され、都市公園内に保育園の建設が可能となると同時に Park-PFI が制定され、PPP の導入を検討していた盛岡市公園部署と盛岡市保育園部署のニーズが一致し、施策的な位置付けを得ることができました。

また、民間の投資意欲も確認できていたため、事業化に向けて一気に動き出した感覚があります。

③ クリアした壁

PPP の実施にあたって、最適な手法は Park-PFI ですが、クリアしなければならない次の諸条件がありました。

(ア) 施策的位置付け
公園部署と保育園部署のニーズが一致していること、盛岡市長の選挙公約で待機児童解消を掲げていたことから、盛岡市中央公園の PPP と保育園設置が異例の早さで施策としての位置付けを得ることができました。

(イ) 都市公園整備にかかる予算確保
Park-PFI の成立には、特定公園施設整備（行政が整備

する広場や園路等）にかかる予算措置が必要でした。しかし、前述しているとおり盛岡市中央公園整備費の予算化は厳しい財政状況から困難です。また、多くの雑木が植生して未造成であり、民間事業者が全てを負担して事業化するには厳しく、民間投資誘導が難しい状況でした。

盛岡市では、行財政負担を発生せずに民間投資を誘導させるための方策を検討した結果、20年間の都市公園使用料を無償としました。都市公園使用料相当分民間事業者が特定公園施設整備及び維持管理を行ってもらうスキームとして、行財政負担の発生をおさえました。

現在、民間事業者の負担において、都市公園整備と都市公園維持管理すべく事業を推進しています。

(4) 事業提案内容

盛岡市へ提案した事業内容の基本は「都市経営課題解決×経済合理性＝都市公園経営」による、盛岡市の持続可能な都市経営の実現です。

① 都市経営課題

BeBA TERRACE で取り組む都市経営課題の解決は、待機児童向け保育園設置と不登校傾向児向けフリースクールの設置による就業体験を行うことにしています。

したがって、公募対象公園施設は全て体験学習施設として機能させることにしております。

② 経済合理性

民間企業にとってファイナンスを成立させることは当然のことなので割愛しますが、我々が指す経済合理性とは行政にとっても財政的メリットを生じさせることです。

盛岡市では、都市公園整備費の予算化が困難であることから、20年間の都市公園使用料を無償としましたが、盛岡市の財政面または盛岡市公園部署としてのメリットを整理すると次のようになります。

(ア) 盛岡市中央公園内に民間所有の公募設置管理施設（民間施設）ならびに占用施設（保育園）が建設されたことにより、固定資産税の税収が発生します。

(イ) 公園部署としては、盛岡市中央公園の整備費を予算化することなく整備が促進されます。また、維持管理も民間事業者が行うことから、他の都市公園維持管理に予算的または人的リソースを割くことが可能となります。

(5) BeBA TERRACE の現在

2020年10月に保育園が開園し、現在は子ども達の賑やかな声が常に響く都市公園となりました。

2021年6月にファーマーズマーケットがオープンし、

農作物や花の購入者が来るようになると同時に広場等の整備も進み、居心地の良い空間が出来上がりつつあります。

今後は、2021年9月から飲食棟が工事着手となり、まなび棟（ホーム Spanien 工房、洋菓子店、美容院及びレンタルギャラリー等）、スケートボードパーク（全天候型）、バーベキュー広場、てつびんの学校（ギャラリーカフェ及び南部鉄器工房）及びフリースクールも入居する子ども図書館等々が順次工事着手し、オープンする予定です。



保育園の回廊から見る園庭 保育園のオープニングセミナー

4. BeBA TERRACE の Vision, Mission, Concept

民間事業者にとっては、行政の視点が理解できないため、議論を重ねるなかで都市公園を活用させてもらう認識の希薄さを感じました。盛岡市民の貴重な財産を活用させてもらう PPP は公共事業であることを改めて認識させ、パブリックマインドを醸成させる必要があると考えました。

まずは協議会で、本プロジェクトは公共事業でありパブリックマインドを持って取り組まないと市民からの賛同を得ることは難しく、延いては公募対象公園施設の経営にも影響があることを何度も話しました。民間事業者に理解を得たうえで、盛岡市中央公園とエリアの価値を上げるための Vision、Mission 及び Concept を整理し、事業者間の共通認識を持ってもらうようにしています。

Vision
「未来の大人が我がまちを誇れる空間」

成長期はあらゆるインフラ供給が求められ、効率的に供給してきました。時代は衰退期に入り、各都市ではオリジナルの居心地よい空間創出が求められています。我々は、子ども達が成長し、都市公園で余暇を過ごす場所や盛岡へ帰省した際には必ず寄る場所を作ることを目指します。

Mission

- Mission1 高いパブリックマインドを持って都市公園経営を実現します。
- Mission2 子育て世代に、より良いサービスを提供します。
- Mission3 民間経営ノウハウを持って教育問題に取り組みます。
- Mission4 企業間連携で都市公園の資産価値向上を実現します。

Concept
「あそびとまなびをこなく場」

BeBA TERRACE は、アソビとマナビがあふれる場所。「あそびを学び、まなびを遊ぶ」をコンセプトに、幅広い世代が楽しみ、つながり、学びあう場をめざします。ふらりと立ち寄って、岩手山を見ながらひとりで本を読んだり、親子で遊んだり。時には考え事をしたり、仕事をしたり。「誰もが心地よくいられる (Be) 場所 (BA)」になるべく、BeBA TERRACE が動き出します。

5. ロゴの設定

Vission 等を整理するなかでプロジェクト名を“ BeBA TERRACE ” (ピバテラス) と決定しましたが、民間事業者の一体感を出すためにプロジェクトを象徴するロゴが必要と考え、ロゴを制作しました。



(1) カラー

BeBA TERRACE では、都市経営課題解決として、待機児童と不登校傾向児に取り組みます。子どもの未来をつくる事業と考えていることから、太陽をイメージする明るいオレンジをプロジェクトカラーとしました。

(2) シンボルマーク

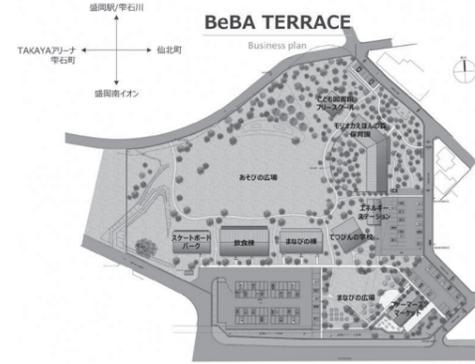
盛岡市中央公園の中心部に位置する山からは、岩手山が綺麗に眺望できるため、岩手山をイメージするシンボルマークとしました。

6. 施設配置の基本方針

盛岡市中央公園のある本宮エリアは、大規模な区画整理により、住宅地が進展した新興住宅地です。しかし、碁盤の目のような道路計画と大きな道路の脇にはナショナルチェーンが店出する風景ができました。人が自然をコントロールしやすい環境ともいえ、どこの都市にでもある個性のないエリアとなっています。

人が自然をコントロールする環境は、過ごしやすい一方で子供たちがいつまでもいたいと思えるのかという疑問がありました。したがって、子供たちが我がまちと思える空間をつくることを目指しました。

自然をコントロールしやすい住宅地と自然の変化を受け入れる都市公園を分離することとし、BeBA TERRACE の公募対象公園施設等で区切るように建物を配置し、建物の正面は住宅地ではなく、岩手山や一級河川雫石川を眺める方向を向いて緑豊かな風景を見られるようにすることにしました。



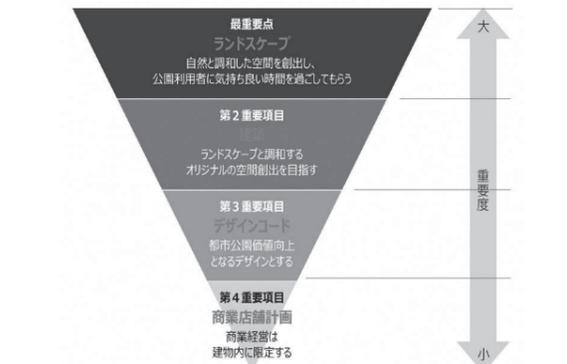
7. 設計ルール

上記の4~6を設定したうえで都市公園施設としての位置付けを持つ公募対象公園施設は、民間収益施設とは違うという意識を持つことが重要と考えました。

都市公園施設として整備する公募対象公園施設と民間収益施設、どちらも利用者へサービスを提供して対価を得ることは同じですが、その施設の経営意味は大きく違うと思っています。都市公園施設である公募対象公園施設は、公共サービスに付加価値を提供する者であり、都市公園やエリアの価値を上昇させることが重要であると考えています。

民間事業収益施設による収益重視主義と同じ思考による過度で華美な看板や照明を設置しないようにすることが大切ですが、民間事業を展開してきた事業者には理解し難いところであるため、設計する際のルールを次のとおり設定して会議の都度、われわれ事業者が行っている事業は、公共事業であることを話しています。

設計ルールで注目していただきたいのは、民間収益施設であれば、重要度項目は逆になるという点です。PPP



既存樹木を活用した保育園 LDと調和する建築

はあくまでも公共事業ですので、都市公園をより良いものにすることが大切なため、最重要項目はランドスケープとなります。

また、一方で、われわれ事業者は公募対象公園施設の経営も成立させなければなりません。公募対象公園施設の経営に集中するあまり、パブリックマインドを失念してしまう恐れがあると考えています。プロジェクトの本質を見失わないように事業者や店子ではない方々にデザイン審査してもらう「BeBA TERRACE デザイン会議」を設立し、事業のクオリティーを担保していくこととしました。



デザイン

8. 最後に

2017年の都市公園法改正で Park-PFI が制定され、全国各地で都市公園を活用した事業がスタートしています。本稿では市民の貴重な財産を活用する者として、パブリックマインドを持って取り組む必要性を整理しました。

しかし、マーケットがないところに民間投資誘導を行うことは困難です。地方都市では、大都市と同じような都市公園活用事業は事業性を見出すことができなくて成立しないかもしれません。地方都市の都市公園は、平日はガラガラだが休日には人が集中するという状況や、季節によって利用者数に変化が生まれるなど、事業性を見通せない状況があり、民間企業が投資するメリットを感じづらいのが実情です。

その様な状況において、地方都市で事業性を見出して成立させるための環境構築が必要と考えています。

- (1) 行政の規制緩和
- (2) 行政が民間事業者に委ねる覚悟 (魅力的な空間整備は民間の方が得意)

(3) “誰と何をするか” 要は魅力的なチームの組成
大都市では現在あるマーケットが明確で、いまあるマーケットのなかで安価に使える公共空間があるので事業性を見出すことが容易なのです。しかし、地方都市では、上記の環境を整えることで大都市にはない魅力的な空間を作り出すことができ、マーケットを拡大させることができることを実感しています。

大都市には大都市なりのアプローチがあり、地方都市には地方都市なりのアプローチがあるのです。特に地方都市で事業性を見出すには、オリジナルの空間を作り出すことが必要であり、そこにはランドスケープの概念が不可欠と考えています。

一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会 会員名簿

正会員 78

◎：会長 ○：副会長 ◇：理事 □：監事

会員名	電話番号	協会代表者	〒	所在地	FAX番号
株式会社アーバンデザインコンサルタント	03-3353-1016	望月英彦	160-0022	新宿区新宿 1-26-9 ビリーヴ新宿	03-3353-1018
株式会社アーバンデザインコンサルタント	092-282-1788	○ 大杉哲哉	812-0029	福岡市博多区古門戸町 7-3 古門戸中基ビル	092-282-1777
株式会社愛植物設計事務所	03-3291-3380	趙 賢一	101-0064	千代田区神田猿楽町 2-4-11 犬塚ビル	03-3291-3381
株式会社あい造園設計事務所	03-3325-6660	鈴木 綾	168-0063	杉並区和泉 3-46-9 YS 第一ビル	03-3325-6262
株式会社荒木造園設計	0727-61-8874	荒木美真	563-0024	池田市鉢塚 2-10-11	0727-62-8234
株式会社荒谷建設コンサルタント	082-292-5481	長谷山弘志	730-0833	広島市中区江波本町 4-22	082-294-3575
株式会社エイト日本技術開発	03-5341-5151	田中紀昭	164-8601	中野区本町 5-33-11 中野清水ビル	03-5385-8505
株式会社エコル	03-5791-2901	矢島唯弘	108-0074	港区高輪 3-4-1 高輪信成ビル	03-5791-2902
株式会社エス・イー・エヌ環境計画室	06-6373-4117	津田主税	530-0014	大阪市北区鶴野町 4-11-1106	06-6373-4617
株式会社エスティ環境設計研究所	092-271-3606	澁江章子	812-0028	福岡市博多区須崎町 12-8	092-271-3662
株式会社 LAU 公共施設研究所	03-3269-6711	山本忠順	162-0801	新宿区山吹町 352-22 グローサユウ新宿	03-3269-6715
株式会社オオバ	03-5931-5812	菊谷 隆	101-0054	千代田区神田錦町 3-7-1 興和一橋ビル	03-5931-5817
株式会社環境・グリーンエンジニア	03-5209-3691	小林哲央	101-0041	千代田区神田須田町 2-6-5 OS'85 ビル	03-5209-3696
環境設計株式会社	06-6261-2144	井上 健	541-0056	大阪市中央区久太郎町 1-4-2	06-6261-2146
株式会社環境設計研究室	03-5401-3900	納谷和親	105-0001	港区虎ノ門 5-3-2 神谷町アネックス	03-5401-3905
株式会社環境デザイン研究所	03-5575-7171	佐藤文昭	106-0032	港区六本木 5-12-22 永坂ビル	03-5562-9928
株式会社環境緑地研究所	011-221-4101	村上恒久	060-0004	札幌市中央区北 4 条西 6-1-1 毎日札幌会館	011-221-4237
株式会社環境緑地設計研究所	078-392-1701	松下慶浩	650-0024	神戸市中央区海岸通 2-2-3 サンエービル	078-392-1576
株式会社環境ヴィトゥム	097-534-1436	松本克哉	870-0046	大分市荷揚町 10-13	097-537-8578
キタイ設計株式会社	0748-46-4902	梶 雅弘	521-1398	近江八幡市安土町上豊浦 1030	0748-46-5620
株式会社空間創研	075-823-6331	○ 宇戸睦雄	600-8392	京都市下京区綾小路通堀川西入妙満寺町 580 番地 1	075-823-6332
株式会社グラック	03-3249-3010	北川明介	103-0004	中央区東日本橋 3-6-17 山一織物ビル	03-5645-7685
株式会社 KRC	026-285-7670	宮入賢一郎	381-2217	長野市稲里町中央 3-33-23	026-254-7301
景域計画株式会社	045-263-9504	八色宏昌	231-0005	横浜市中区本町 1-5-2-2D	045-263-9505
株式会社景観プランニング	028-650-3030	柳田千恵子	320-0036	宇都宮市小幡 1-3-16	028-650-3034
株式会社建設環境研究所	03-3988-1818	浦川雅太	170-0013	豊島区東池袋 2-23-2	03-3988-2018
株式会社現代ランドスケープ	06-6203-1270	◇ 西辻俊明	541-0046	大阪市中央区平野町 3-1-10-603	06-6203-1271
株式会社公園マネジメント研究所	06-6947-6522	小野 隆	540-0012	大阪市中央区谷町 2-2-22 NS ビル	06-6947-6523
サンコーコンサルタント株式会社	03-3683-7152	串田宗史	136-8522	江東区亀戸 1-8-9	03-3683-7116
株式会社シビックアーツコンサルタント	092-555-4151	兼安勝介	815-0032	福岡市南区塩原 4-5-29	092-555-5693
株式会社シビテック	011-816-3001	三浦 亨	003-0002	札幌市白石区東札幌 2 条 5-8-1	011-816-2561
株式会社シン技術コンサル	011-859-2604	佐々木公明	003-0021	札幌市白石区栄通 2-8-30	011-859-2614
株式会社新日本コンサルタント	076-464-6520	西田 宏	930-0857	富山市奥田新町 1 番 23 号	076-464-6671
株式会社スペースビジョン研究所	06-6942-6569	安場浩一郎	540-6591	大阪市中央区大手前 1-7-31 OMM ビル	06-6942-6897
株式会社セット設計事務所	042-324-0724	和田 淳	185-0012	国分寺市本町 2-16-4	042-324-3468
株式会社ZEN 環境設計	092-643-5500	中村久二	812-0053	福岡市東区箱崎 1-32-40	092-643-5520
株式会社爽環境計画	03-3829-4691	木村 隆	130-0013	墨田区錦糸 3-7-11 メゾン・ド・ファミリー	03-3829-4692
株式会社総合計画機構	06-6942-1877	濱口和雄	540-0012	大阪市中央区谷町 2-2-22 NS ビル	06-6942-2447
株式会社総合設計研究所	03-3263-5954	◇ 石井ちはる	102-0072	千代田区飯田橋 4-9-4 飯田橋ビル 1 号館	03-3263-7996
第一復建株式会社	092-412-2230	箱嶋 斉	812-0006	福岡市博多区上牟田 1-17-9	092-412-2240
株式会社デザイン設計	011-222-2325	川端達雄	060-0005	札幌市中央区北 5 条西 6-1-23	011-222-9103

会員名	電話番号	協会代表者	〒	所在地	FAX番号
大日本コンサルタント株式会社	03-5298-2051	酒井康弘	101-0022	千代田区神田練堀町 300 番地 住友不動産秋葉原駅前ビル	03-5295-2130
高野ランドスケーププランニング株式会社	0155-42-3181	◎ 金清典広	080-0344	河東郡音更町字万年西 1 線 37 番地 旧チャンネル小学校	0155-42-3863
玉野総合コンサルタント株式会社	052-979-9111	速水厚志	461-0005	名古屋市東区東桜 2-17-14 新栄町ビル	052-979-9112
株式会社地域計画建築研究所	06-6205-3600	水谷省三	541-0042	大阪市中央区今橋 3-1-7 日本生命今橋ビル	06-6205-3601
株式会社地球号	06-6945-7566	中見 哲	540-0031	大阪市中央区北浜東 6-6 アクアタワー	06-6945-7595
中央コンサルタンツ株式会社	052-551-2541	◇ 三浦利夫	451-0042	名古屋市西区那古野 2-11-23	052-551-2540
株式会社塚原緑地研究所	043-306-8446	◇ 塚原道夫	261-0004	千葉県美浜区高洲 3-11-3 第 2 並木ビル	043-306-8447
株式会社本智子環境デザイン研究所	0799-72-0216	辻本智子	656-2401	淡路市岩屋 3000-176	0799-72-0217
株式会社東京ランドスケープ研究所	03-6859-1088	○ 小林 新	151-0071	渋谷区本町 1-4-3 エバーグレイス本町	03-6859-1087
株式会社ドーコン	011-801-1535	◇ 福原賢二	060-0808	札幌市北区北 8 条西 3 丁目 28 番地 札幌エルプラザ 8 階	011-801-1536
株式会社都市技術設計コンサルタント	096-389-8453	西田公一	861-8045	熊本市東区小山 2-23-69	096-389-8506
株式会社都市計画研究所	03-3262-6341	□ 佐藤憲璋	103-0014	中央区日本橋蛸殻町 2-13-5 美濃友ビル	03-3669-8924
株式会社都市ランドスケープ	03-5269-8982	◇ 内藤英四郎	162-0065	新宿区住吉町 5-7 曙橋ハイム鍋倉	03-6384-1814
株式会社トロピカル・グリーン設計	098-832-3169	喜屋武 忍	902-0072	那覇市字真地 388 番地 6	098-832-6374
株式会社中根庭園研究所	075-465-2373	中根史郎	616-8013	京都市右京区谷口唐田ノ内町 1-6	075-465-2374
株式会社虹設計事務所	03-3419-7259	◇ 光益尚登	154-0001	世田谷区池尻 3-3-1 キドビル	03-3419-7246
株式会社ニュージェック	06-6374-4032	堀内康介	531-0074	大阪市北区本庄東 2-3-20	06-6374-5147
株式会社パシフィックコンサルタンツ	03-6777-4433	西上律治	101-8462	千代田区神田錦町 3-22	03-3296-0530
株式会社復建技術コンサルタント	022-262-1234	仲村明信	980-0012	仙台市青葉区錦町 1-7-25	022-265-9309
株式会社復建調査設計	082-506-1853	藤田健一	732-0052	広島市東区光町 2-10-11	082-506-1890
株式会社南ブラネット・コンサルティングネットワーク	03-3652-5508	岡島桂一郎	132-0025	江戸川区松江 7-21-19	03-3652-5506
株式会社ブレック研究所	03-5226-1101	杉尾大地	102-0083	千代田区麹町 3-7-6 麹町 PREC ビル	03-5226-1112
株式会社文化環境設計研究所	03-6321-8062	落合直文	165-0026	中野区新井 1-12-6 B102	03-6321-8062
株式会社ヘッズ	06-6373-9369	田中 康	530-0022	大阪市北区浪花町 12-24	06-6373-9370
北海道造園設計株式会社	011-758-2261	佐藤俊義	060-0807	札幌市北区北 7 条西 2-6 山京ビル	011-709-5341
株式会社ポリテック・エイディディ	03-6222-8912	吉田 博	104-0041	中央区新富 1-18-8 RBM 築地スクエア	03-5541-3510
株式会社三菱地所設計	03-3287-5750	◇ 植田直樹	100-0005	千代田区丸の内 2-5-1 丸の内二丁目ビル	03-3287-3230
株式会社緑設計	0188-62-4263	◇ 板垣清美	010-0973	秋田市八橋本町 4-10-26	0188-62-4273
株式会社緑の風景計画	03-3422-9511	板垣久美子	154-0012	世田谷区駒沢 2-6-16	03-3422-9530
株式会社森緑地設計事務所	03-5484-6070	藤内誠一	108-0014	港区芝 5-26-30 専売ビル	03-5484-1550
株式会社 UR リンケージ	03-6803-6200	高橋和嗣	135-0016	江東区東陽 2-4-24 サスセンター	03-6803-6222
株式会社ライフ計画事務所	03-5626-4741	◇ 金子隆行	136-0071	江東区亀戸 6-58-12	03-5626-4740
株式会社 LAT 環境設計	082-273-2605	青木成夫	733-0821	広島市西区庚午北 2-1-4	082-271-2230
株式会社ランズ計画研究所	045-322-0581	□ 川島 保	220-0004	横浜西区北幸 2-10-36	045-322-0719
株式会社ランドプランニング	047-710-6120	萩野一彦	271-0092	松戸市松戸 1228-1 5F	047-710-6220
株式会社リアライズ造園設計事務所	06-6941-1151	田中幸一	540-0026	大阪市中央区内本町 1-1-6-401	06-6941-1154
株式会社緑景	06-6763-7167	瀬川勝之	542-0064	大阪市中央区上汐 1-4-6	06-6765-5599

会員名	電話番号	協会代表者	〒	所在地	FAX番号
アゴラ造園株	03-3997-2108	荻野淳司	179-0075	練馬区高松 6-2-18	03-3997-2252
株石勝エクステリア	03-3709-5591	川崎鉄平	158-0094	世田谷区玉川 2-2-1	03-3709-5857
石黒体育施設株	052-757-4030	石黒和重	464-0848	名古屋市千種区春岡 2-27-18	052-763-8110
株ウォーターデザイン	03-3431-8070	山本 誠	105-0004	港区新橋 6-9-2 新橋第一ビル	03-3431-8116
内田工業株	052-352-1811	内田裕郎	454-0825	名古屋市中川区好本町 3-67	052-351-1326
H.O.C 株	0956-48-8101	鏡流馬清規	858-0907	佐世保市棚方町 221-2	0956-48-8111
株岡部	0764-41-4651	石永裕明	930-0026	富山市八人町 6-2	0764-31-6340
快工房株	048-291-7721	時岡邦男	333-0816	川口市差間 2-14-5	048-291-7725
小岩金網株	03-5828-8828	一戸典夫	111-0035	台東区西浅草 3-20-14 JNT ビル	03-5828-7693
コサカ建材株	052-433-5821	高田一行	453-0837	名古屋市中村区二瀬町 53 番地	052-433-5847
株コトブキ	03-5280-5400	小林大祐	105-0013	港区浜松町 1-14-5 D.I. センター	03-5280-5768
株コンパスサービス	03-5920-7031	天木信彦	174-0064	東京都板橋区中台 2-15-8-104	03-5920-7032
株ザイエンス	03-3284-0501	杉本吉正	101-0044	千代田区鍛冶町 1-9-4 KYY ビル	03-3284-0504
株サカエ	0422-47-5981	栗田耕司	181-0004	三鷹市新川 4-7-19	0422-49-2122
株サトミ産業	0258-87-5500	佐藤 勉	940-0871	長岡市北陽 2-14-23	0258-87-5501
株三英 景観事業部	04-7153-1511	鈴木 智	270-0119	流山市おおたかの森北 1-8-6	04-7153-3627
信建工業株	054-276-2151	立石 守	421-1212	静岡市葵区千代 1-18-29	054-276-2154
スイコー株	06-6412-5855	矢島由浩	660-0857	尼崎市西向島町 86 番地	06-6414-2284
西武造園株	03-4531-3600	本郷壮一	171-0051	豊島区長崎 5-1-34 東長崎西武ビル	03-4531-3610
太陽工業株 空間デザインカンパニー	03-3714-3461	鈴木久文	153-0043	目黒区東山 3-16-19	03-3791-7731
大和リース株	06-6942-8011	野田夏夫	540-0011	大阪市中央区農人橋 2-1-36	06-6942-8051
タカオ株	0849-55-1275	高尾典秀	720-0004	福山市御幸町中津原 1787-1	0849-55-2481
テック大洋工業株	03-5703-1441	小俣智裕	144-0052	大田区蒲田 4-22-8	03-5703-1444
東亜道路工業株	03-3405-1813	梅田剛士	106-0032	港区六本木 7-3-7	03-3405-4210
株ドゥサイエンス	03-5561-9751	香取良一	106-0032	港区六本木 4-1-16 六本木ハイツ 511 号	03-5561-9726
株トーシンコーポレーション	03-3714-0151	塚田俊介	152-0001	目黒区中央町 2-35-13	03-3710-1191
トーヨーマテラン株	0568-88-7080	八木道雄	480-0303	春日井市明知町 1512	0568-88-3370
株中村製作所	047-330-1111	櫻田正明	271-0093	松戸市小山 510	047-330-1119
日都産業株	03-3334-2216	西尾幸三	168-0081	杉並区宮前 5-19-1	03-3334-6211
日本乾溜工業株	092-632-1050	下川 徹	812-0054	福岡市東区馬出 1-11-11	092-632-1082
日本体育施設株	03-5337-2616	奥 裕之	164-0003	中野区東中野 3-20-10 ケイエム中野ビル	03-5337-2610
長谷川体育施設株	03-3422-5331	中田慎一	154-0004	世田谷区太子堂 1-4-21	03-3412-8415
花豊造園株	075-341-2246	勝山禎彦	600-8361	京都市下京区大宮通五条下る二丁目堀之上町 518 番地	075-361-0961
日日石材株	03-5637-9211	渡辺昌照	131-0033	墨田区向島 3-39-14	03-5637-9213
株日比谷アメニス	03-3453-2402	奥本 寛	108-0073	港区三田 4-7-27	03-3453-2417
株富士植木	03-3265-6731	成家 岳	102-0074	千代田区九段南 4-1-9	03-3265-3031
前田工織株 東京本社	03-6402-3944	近藤宏之	105-0011	港区芝公園 2-4-1 芝パークビル A 館	03-6402-3945
株丸山製作所	03-3637-4340	丸山智正	136-0071	江東区亀戸 7-5-1	03-3683-7553
株モクラボ	0790-66-3210	関根純一	671-2411	姫路市安富町三森 421-3	0790-66-3810
株ユニゾン	052-238-1187	荒川直樹	473-0925	豊田市駒場町藤池 17 番地 1	052-238-1178

編集後記

CLAjournal をご覧いただき、ありがとうございます。今号は、例年の CLA 賞受賞作品の紹介と合わせて、「ランドスケープ整備・管理運営の新たな潮流において、ランドスケープコンサルタンツに期待される役割」と題した企画特集を取りまとめました。

CLA 賞受賞作は、最優秀賞となった大規模再開発地のランドスケープ、優秀賞は復興住宅地や大学構内のランドスケープ、公園のリニューアル、緑地の再整備や災害の復興記念公園、そして緑のコーディネーターの育成、特別賞はオリンピック関連施設、奨励賞は三陸復興国立公園の拠点整備支援と、多様な内容となりました。

「ランドスケープ ~」特集は、まちづくりや地域活性化の核となる公園の整備事例です。公園が地域の重要なインフラとして、その機能発揮がますます求められている事例を紹介しました。ランドスケープの多様な可能性に期待大です。

CLAjournal

NO.182

発行日◎ 2021 年 10 月 25 日

発行人◎ 金清典広

編集◎ (一社)ランドスケープコンサルタンツ協会
広報委員会

発行所◎ (一社)ランドスケープコンサルタンツ協会
〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-3-7
近江会館ビル
TEL 03-3362-8266 FAX 03-3662-8268
http://www.cla.jp

※本ジャーナルの無断複製・転載・転用は固くお断りします。